

(1) 平成21年度いしかわ森林環境基金事業評価報告書(案)(資料2)

(委員)

森林環境税の大きな目標は手入れ不足林の整備と過疎地の雇用創出ということがあったように思うが、概算すると2千haの整備で数万人の雇用創出をしていることになるが、そういうことを書きとどめておく必要はないか。

(事務局)

具体的な試算はまだしていないが、ご指摘のように森林整備は公共事業の中でも直接人件費の割合が高く、雇用創出効果が非常に高いといわれている。森林環境税の取組のみならず一般の利用間伐をするような森林整備についても、雇用効果が非常に高いと考えている。国で昨年まとめられた森林・林業再生プランというの、元々は雇用戦略の中で出てきたこともあり、効果としては非常に高いものがあると考えている。

(委員)

森林環境税を使って創出した雇用が、年間5万人というのは非常に大きなもので、どこかに評価しておいた方がよいのではないか。

(事務局)

5ページの「労働力の安定的な確保」のところに書き込む工夫をしたい。

(委員)

建設業者の参入が増えたというのは9ページにあるが、直接の雇用効果も大きいものなので評価しておくとうい。

(委員)

雇用促進に関しては様々な分野で始まっているが、この税についても、人件費といった雇用した金額まで示すのが難しければ、何割の効果があったというふうに入れていただくと、もっと身近な理解に結びつくと思う。先日知事をお招きして中能登から奥能登にかけての女性県政会議があったが、その時に知事のお話の中でこの税のことを知ってますかと会場に呼びかけたところ、知っている人が僅かしかいなかった。一生懸命取り組んでいるなかで、実績が生まれているということに対して、パーセントでもよいし、約何千万円といった額でもかまわないが、もっと私たちが理解できるような形で知らせてほしい。

(委員)

PRに関連して、シンポジウムなどはどうしても金沢中心になってしまいがちであるが、広報も含めて県民の理解を得るという意味で、能登地区とか加賀地区とかいろいろな地域で、ミニシンポジウムでもいいので開いた方がよいと思う。

(委員)

そういったことも今後考えて欲しい。特に能登の方は相当雇用創出にも貢献しているので、PRし

たらよい。

他にお気づきの点がなければ、21年度の報告書については原案どおり、今の意見も加えていただき、具体的な取りまとめは委員長にお任せいただき、事務局と協議して進める。

(2) 本年度の環境林モニタリング調査の概要 (資料3)

(委員)

3ページをみると、鳥類の調査結果に関し、適正間伐林の下層植生の多いところは種類も量も多く、逆に手入れ不足林は少ない。こんなに違うものかと思うほど違う。

(委員)

先日、若い頃からずっと炭焼きをしていた方と話をしたが、炭を焼くときは広葉樹の山を伐って、更新して30年程したらまた炭を焼くが、欲しい木だけではなく、一度下草を全部刈ると聞いた。そうすることで更に小さい下層植生が生えてきて植生が豊かになった。今クマが町に出てくるのは、50年ほど広葉樹を伐っておらず、その回転が出来ていないので、広葉樹が高齢化して荒れている結果、何も食べるものがないためとも考えられる。昔はそれだけ山に食べるものがあつたし、植生も多かったからクマは十分山の中で生活できた。

(委員)

1ページの水土保持機能調査については、間伐を実施する前と間伐後の何年後かの同じ場所で比較をするのか。同じ場所で比較すれば、はっきりと効果がわかると思うが。

(事務局)

今回はそれはできていない。平成19年、20年、21年とそれぞれの年度に実施した箇所と、今の時点で差があるところと一緒に調べている。

(委員)

今回、下草植生と鳥の生息状況の関係は相当はっきりと相関が出たが、水土保持機能との関係についてはなかなか難しく差が出にくいと思う。オーダーが違うぐらい違えばわかるが、小さな差を検出するのはかなり難しい。ただ、水の浸み込み方は大きく異なり、植生があるところと無いところでは桁違いに違うと思う。

環境林モニタリング調査は、既に成果が出たものも、鋭意整理されているものもあるが、まとめにあるように、鳥が来ることによって植生自体も豊かになって相互関係が予測できるという結果である。

(3) 人工林等に侵入した竹林の調査結果 (資料4)

(委員)

竹の侵入状況について説明して頂いたが、前回の評価委員会で、手入れ不足人工林の間伐が順調に進んでいる中、森林環境税の中で、竹林整備が可能かという発言があり、それについてどのように考えるべきかということであったが。

(事務局)

人工林等に侵入した竹林については、概念としては、今まで対象としている手入れ不足林に含まれていると考える。これまで、水源林ということで奥山から優先的に手入れしてきたが、侵入竹林については、集落到近い山であり、どちらかの側から見るとかという問題はありますが、同じ手入れ不足人工林

の中に含まれるもので、2万2千畝の中に入っているものと理解して頂きたい。なお、純粋な竹林は手入れ不足人工林には入らないので、具体的に整備を行っていく段階で、こういうところも整備しなければ、抜本的な対策にはならないといった課題についても検討が必要になると思う。

(委員)

今まで議論している手入れ不足人工林は、間伐が行われていなかったもので、手入れ不足になったもの。今後は、竹が侵入したことによって手入れ不足になったものも含まれるということか。

(事務局)

順番としては、手入れが不足していたため、竹の侵入を引き起こしたという側面もあると思うが、一つ付け加えると、竹が侵入してきたところは、今までのような処理の仕方では追いつかないので、かなり手がかかると思う。

(委員)

手法は変わりうるが、手入れ不足人工林ということでは同じなので、竹の方も整備が必要であると思えばよいということか。

(事務局)

現実として問題があるということであれば対応しなければならない。

(委員)

竹の問題は現実であり、これまでは奥山ばかり整備していたが、里山についても非常に荒れてきている。自分も色々試してはいるが、竹林の整備には手間がかかるのが現実。

(事務局)

竹処理の情報として、竹を根元から伐るのではなく、1m位の高さで伐ると根まで腐るという研究報告もあり、県内でも試験地を設け、検証しているところ。

(委員)

今の処理方法だとヘクタール当たりの単価はどのくらいか。

(委員)

成立本数約7,000本/畝で、1,500千円/畝くらいかかる。1mの高さで伐る方法については、自分でもやってみたが、効果がなかった。

(事務局)

地域性とか、竹齢など条件があるかもしれないので、実例を増やして検証してみたい。

(委員)

もともと竹の処理については、簡単ではなく、どう利用するかも課題であるが、最近、竹炭はどうなっているか。

(事務局)

竹炭は火力が強いが、保ちが悪いなど、なかなか消費販路を作れないのが現状。ただ、竹利用については、チップにして堆肥にする過程で発熱する熱を利用し、魚の養殖を行ったり、堆肥をカブトムシの幼虫の飼育に利用したりと色々と試みている人もいる。

(委員)

竹の問題については非常に困っていることがわかったが、今後、森林環境基金の一部を使うとなれば、整合性のある説明が必要になると思うが、その検討も必要になると思う。

(4) 平成23年度森林環境基金評価委員会スケジュール (資料5)

(委員)

来年は制度導入後5年目の節目になるので、第1期の進捗状況の評価と次期の計画についての準備になる。当委員会については、半数以上の出席という成立条件があるが、例えば代理を立てることを可能にすることはできないか。

(事務局)

要領上は代理について規定していないが、来年は開催回数が増えるので、委員との協議の中で代理とか、委任ができるような規定に変更することも含めて、来年の第1回の会議でこの件について、ご相談させていただきたいと思う。

(委員)

業務上、伝達や申し送りが確実にできる組織はいいが、個人の立場で委員になっている私のような場合、周りに森林の話ができる人がいる訳ではないので、代理を立てるのは困難である。

(事務局)

団体の長であれば副会長を出せることもあるが、組織でなく個人として委嘱されている委員の代理を立てるのは難しいと思う。そのような方にはできるだけ日程調整をするので、出席していただきたい。

(委員)

この件に関しては、事務局の方で、次回までに方針を決めていただきたい。

(委員)

一つ気になる点があるが、先ほどの意見で、普及するイベント等について金沢だけでなく、能登や加賀でも開催してほしいというものがあつたが、何年間かこの委員会に出席して、自分が森林環境のために何ができるのか、考えてきた。自分にできることとして、七尾の地元の婦人会で石川の森づくりはどのようであるかを伝えている。特に主婦は税金のことを気にする一方、税金が何に使われているかについて細かく関心を向けるのは難しい。例えば雇用創出事業による助成制度については、一時的な雇い入れではなく、安定した雇用が確保され、社会に役立つ取組が行われることが望ましいものとするが、このような観点から、森林の整備に対して雇用対策が進めば、PR効果も高まると思う。

(事務局)

森林管理課の実施している雇用対策についていえば間伐であるが、資格の必要なチェーンソーを使

っての急斜面での危険な作業もあり、その技術者を養成していかなければならない。

石川県森林組合連合会では、国の雇用事業を利用して、ハローワークで募集した者に、まずは平坦な海岸の現場でニセアカシアの伐倒をやってもらい、チェーンソーや下刈り機に慣れてもらうような形で実施している。そして林業事業体に就職して、次に山で本格的に仕事をやってもらうようにステップごとにやっている。このようにして、これまで3年間で90人余の人に対し、雇用の確保を図っている。しかし、就職してからの定着率は余りよくない。自分の思いと仕事の中身があわないというギャップでやめていく人もかなりいる。

(委員)

金沢市は林業大学校をつくった。県に林業大学校のようなものはないか。

(事務局)

林業試験場にあすなろ塾というのがある。毎年約12～13名くらいが卒業しているが、なかなか林業としての就業は難しいのが現状。

(委員)

最近、白峰地区の森林整備の検査に行った。地元の若い作業員がおり、若者の働く場所が少ない地域の中で森林の整備事業の雇用効果について感じた。

(委員)

木炭を利用することがあるが、竹炭は木炭より価格が高い。価格が下がるのであれば、需要が増え、竹の利用も進むのではないかと思う。また、竹の繊維を利用した布なども開発されており、このような研究が進めば利用も増えるのではないか。